

科目名 【英】	保健体育 Health and Physical Education			必修/選択	必修	授業形式	演習
				総時間数	30	単位	1
学年	3年	学期	前期	曜日	水曜日	時限	2限

担当教員	渡辺 久美子	実務者経験	
------	--------	-------	--

学習内容	また実践で（今すぐ）行える処置ならびに運動療法等の習得を目指す。
到達目標	西洋医学的な立場から臨床現場において必要な処置および治療等に関する医学的知識の習得。

準備学習 時間外学習	
使用教材	【配布資料】あり
留意点 備考	

成績評価	本試験100%
------	---------

前期 授業計画【内容・目標】		
1	頭部のスポーツ外傷	分類と救急処置
2	顔面のスポーツ外傷	分類と処置
3	リハビリテーションとスポーツ復帰	運動療法と復帰時期
4	スポーツと栄養	アスリートに必要な栄養素と摂取法
5	性別、年代別のスポーツ	女性とスポーツ、中高年とスポーツ、成長期とスポーツ
6	内科的疾患と運動療法	代表的な疾患の運動療法と注意点
7	ストレッチの基礎と実技	ストレッチの種類と効果
8	競技別のアスリハ（野球）	代表的外傷の予防と治療法
9	実技	肩背部、肘関節周辺への施術
10	競技別のアスリハ（バスケットボール）	代表的外傷の予防と治療法
11	実技	下肢への施術
12	競技別のアスリハ（陸上）	代表的外傷の予防と治療法
13	実技	下肢への施術
14	復習	
15	前期テスト	
16	テスト解説、まとめ	

科目名 【英】	経営マネジメント Office Management			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単位	2
学年	3年	学期	後期	曜日		時限	

担当教員	柳野 隆生	実務者経験	~1970年 弁理士試験合格・関西大学法学部卒 1970年~1975年 大手化学会社・知財法務事務所勤務 1975年~国際知財法務事務所を開設し、知財法務・研究開発・ベンチャービジネス育成とトップ育成を融合した業務を行う。
------	-------	-------	---

学習内容	開業に向け、必要な知識を学ぶ。
到達目標	将来に向けて、自己のビジネスプランを作成する。

準備学習 時間外学習	
使用教材	【教科書】なし 【配布資料】あり
留意点 備考	成績評価はビジネスプランの100点評価でおこなう。

成績評価	本試験100%
------	---------

後期 授業計画【内容・目標】		
1	これからやらなければならないこととビジネスプランの作成①	独自性、ベンチャー、知の高度化、バイタリティ、専門化、知の連鎖、工夫・改善・開発等の要素の意味の学習
2	これからやらなければならないこととビジネスプランの作成②	ビジネスプラン作成方法について
3	参考になる他の業界の動き、ベンチャービジネスから学ぶ①	国内外のベンチャービジネスの事例。オンリーワン志向となる病院では？ベンチマーク、複合技術等
4	参考になる他の業界の動き、ベンチャービジネスから学ぶ②	まとめ
5	特徴ある技術を持つには？①	多くの事例から特徴ある技術を学ぶ 自分の特許技術を持つにはどうするか
6	特徴ある技術を持つには？②	まとめ
7	特徴あるビジネスモデルを持つには①	マーケティング、CRM、アライアンス等で自己のビジネスモデルをどう作るか
8	特徴あるビジネスモデルを持つには②	他のビジネスモデルの事例から学ぶ ビジネスプランの提出
9	できる・できないあなたが変われば院も変わる	信頼される接遇のイロハ①
10	できる・できないあなたが変われば院も変わる	信頼される接遇のイロハ②
11	成功する治療院経営①	これからの治療院経営どこで差をつける①
12	成功する治療院経営②	これからの治療院経営どこで差をつける②
13	成功する治療院経営③	これからの治療院経営どこで差をつける③
14	ビジネスプランの発表と講評	
15	後期テスト	
16	復習	

科目名 【英】	臨床医学各論③ Clinical Medicine Part			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単位	2
学年	3年	学期	前期	曜日	月曜日	時限	2限

担当教員	後藤 卓	実務者経験	2001年4月～2003年3月 鍼灸院に所属 鍼灸院にて鍼灸施術をおこなう
------	------	-------	--

学習内容	臨床医学各論は各疾患の症状や検査などについて学ぶもので解剖学や生理学の基礎を基に各疾患について深く講義していく。
到達目標	現代医学的な観点からの臨床医学を学ぶ。各疾患の概念、疫学、病因、病態生理、症状、診断、治療などを理解し、臨床の場において実際に活用できるレベル、かつ国家試験に対応できるレベルまでを学ぶことを目標とする。

準備学習 時間外学習	1年次、2年次に学んだ解剖学・生理学の復習
使用教材	【教科書】臨床医学各論 【配布資料】あり
留意点 備考	なし

成績評価	各学期に4回小テストを実施。期末試験70%+小テスト30%で評価する。
------	-------------------------------------

授業計画【内容・目標】		
1	循環器疾患①	心臓疾患【心不全】
2	循環器疾患②	心臓疾患【心臓弁膜疾患・不整脈・その他】
3	循環器疾患③	心臓疾患【不整脈・その他】 冠動脈疾患【狭心症・心筋梗塞】
4	循環器疾患④	動脈疾患【動脈硬化症・大動脈瘤・大動脈解離】
5	循環器疾患⑤	血圧異常【高血圧症・低血圧症】
6	神経疾患①	脳血管障害【脳梗塞・脳出血・クモ膜下出血】
7	神経疾患②	感染性疾患【髄膜炎・神経梅毒・ポリオ】
8	神経疾患③	脳・脊髄腫瘍【脳腫瘍・脊髄腫瘍】
9	神経疾患④	基底核変性疾患【パーキンソン病・ハンチントン舞踏病・脳性小児麻痺・ウイルソン病】
10	神経疾患⑤	その他の変性疾患 【脊髄小脳変性症・脊髄空洞症・進行性核上性麻痺】
11	神経疾患⑥	認知症性疾患【認知症】
12	その他の領域①	小児科疾患【小児神経症・小児夜尿症】 一般外科【損傷概論・ショック・救急処置・心肺蘇生術】
13	その他の領域②	麻酔科【全身麻酔・局所麻酔】 耳鼻科【メニエール病・中耳炎・突発性難聴・アレルギー性鼻炎・副鼻腔炎】
14	その他の領域③	精神科【神経症・統合失調症・うつ病・アルコール依存症】 心療内科【心身症・神経性食欲不振症・神経性過食症】
15	前期テスト	
16	復習・まとめ	定期試験の解答・解説・まとめ

科目名 【英】	臨床医学各論④ Clinical Medicine Part			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単位	2
学年	3年	学期	前期	曜日	火曜・金曜	時限	1限

担当教員	山口 隆平	実務者経験	野々村整形外科クリニック（平成16年4月～平成17年10月）
------	-------	-------	--------------------------------

学習内容	現代医学的な観点からの臨床医学を学び、各疾患の概念・疫学・病因・病態生理・症状・診断・治療などをそれぞれ理解
到達目標	、臨床の場において実際に活用できるレベル、かつ国家試験に対応できるレベルの知識の習得を目標とする。

準備学習 時間外学習	
使用教材	【教科書】臨床医学各論 【配布資料】あり
留意点 備考	平常点は授業中に行う小テストの合計点数とする。

成績評価	本試験70% 平常点30%
------	---------------

前期 授業計画【内容・目標】		
1	内分泌疾患①	下垂体疾患【クッシング病・先端肥大症・巨人症・成長ホルモン分泌不全性低身長症】
2	内分泌疾患②	下垂体疾患【尿崩症】 甲状腺疾患【甲状腺機能亢進症・甲状腺機能低下症・慢性甲状腺炎】
3	内分泌疾患③	副腎疾患【副腎皮質機能亢進症・原発性アルドステロン症・副腎皮質機能低下症・褐色細胞腫】
4	代謝・栄養疾患①	糖代謝異常【糖尿病】 脂質代謝異常【高脂血症・肥満症・るいそう】
5	代謝・栄養疾患②	尿酸代謝異常【高尿酸血症・痛風】
6	代謝・栄養疾患③ 血液・造血器疾患①	その他の代謝異常症 【ビタミン欠乏症過剰症・骨軟化症・くる病】 赤血球疾患【鉄欠乏性貧血・巨赤芽球性貧血】
7	血液・造血器疾患②	赤血球疾患【溶血性貧血・再生不良性貧血】
8	血液・造血器疾患③	白血球疾患【白血病】 リンパ網内系疾患【悪性リンパ腫】 出血性素因【紫斑病・血友病】
9	リウマチ性疾患・膠原病①	リウマチ性疾患【関節リウマチ】 膠原病【全身性エリテマトーデス・全身性硬化症】
10	リウマチ性疾患・膠原病②	膠原病【ベーチェット病・多発性筋炎・皮膚筋炎・多発動脈炎】
11	リウマチ性疾患・膠原病③	膠原病【多発性動脈炎・食物アレルギー・血清病】
12	その他の領域①	婦人科疾患【子宮頸癌・子宮体癌・乳癌・更年期障害・月経異常】
13	その他の領域②	皮膚科疾患【接触性皮膚炎・アトピー性皮膚炎・蕁麻疹・湿疹・円形脱毛症】
14	その他の領域③	眼科疾患【結膜炎・角膜炎・麦粒腫・白内障・緑内障・眼精疲労】
15	試験	
16	復習・まとめ	定期試験の解答・解説・復習・まとめ

科目名 【英】	リハビリテーション医学② Rehabilitation Medicine			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単位	2
学年	3年	学期	前期	曜日		時限	

担当教員	中塚 和樹	実務者経験	2002年4月～2019年3月 大和中央病院に所属。外来・入院の急性期～回復期までのリハビリテーションを行う。
------	-------	-------	---

学習内容	一般病院でのリハビリテーション対象疾患となる病態の理解と基本的な運動療法知識の習得。
到達目標	国家試験対策も含めて、リハビリテーションの基礎知識を習得する。

準備学習 時間外学習	運動学・解剖学・各種病態の基礎知識の理解を進める。
使用教材	リハビリテーション医学（東洋療法学校協会） 配布プリント
留意点 備考	授業のはじめと最後に同一の小テストを行い、授業内での予習復習を行うこと。

成績評価	期末試験100%
------	----------

前期 授業計画【内容・目標】		
1	リウマチ	病態生理と基本的運動療法について
2	末梢神経障害	病態生理と基本的運動療法について
3	パーキンソン病	病態生理と基本的運動療法について
4	大腿骨頸部骨折	病態生理と手術の種類、基本的運動療法について
5	肩関節周囲炎	病態生理と基本的運動療法について
6	変形性膝関節症	病態整理と基本的運動療法について
7	腰痛	病態整理と基本的運動療法について
8	小児疾患 1	正常発達について
9	小児疾患 2	各脳性麻痺の病態生理と基本的運動療法について
10	物理療法 1	温熱療法について
11	物理療法 2	水治療法、電気療法、牽引療法について
12	国家試験対策 1	脳血管疾患 脊髄損傷対策
13	国家試験対策 2	各種整形疾患 小児疾患対策
14	前期まとめ	前記範囲の復習
15	試験	試験
16	テスト解説	テスト解説 国家試験その他の対策

科目名 【英】	関係法規 Legal Issues in Medicine			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単位	2
学年	3年	学期	後期	曜日	水曜日	時限	2学期中：2限 3学期：1限

担当教員	山口 隆平	実務者経験	野々村整形外科クリニック（平成16年4月～平成17年10月）
------	-------	-------	--------------------------------

学習内容	はり師・きゅう師の国家試験、開業に必要な法規を学ぶ。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・はり師・きゅう師国家試験問題に対応できるようになる。 ・開業時に必要な法律が理解できるようになる。

準備学習 時間外学習	
使用教材	【教科書】関係法規第7版
留意点 備考	

成績評価	本試験70% 平常点30%
------	---------------

後期 授業計画【内容・目標】		
1	オリエンテーション	法規とは？ 評価方法説明
2	はり師・きゅう師に関する法律①	免許と試験
3	はり師・きゅう師に関する法律②	免許と試験
4	はり師・きゅう師に関する法律③	施術に関する注意 施術所に関する規則
5	はり師・きゅう師に関する法律④	名称制限・広告制限・罰金・罰則
6	法と実定法	法とは何か 法の種類
7	医事法規と医療制度・医療法	病院・診療所・助産所について
8	国家試験願書下書き	願書練習
9	国家試験願書本番	願書本番
10	医療法	病院・診療所・助産所について
11	医師法 その他の医療従事者に関する法律 衛生関係法規	各医療従事者の法律 保健一般・予防衛生・環境衛生に関する法律
12	社会福祉関係法規 社会保険関係法規	福祉の7法 医療保障制度
13	後期試験	
14	国試演習①	問題演習
15	国試演習②	問題演習
16	国試演習③	問題演習

科目名 【英】	はりきゅう実技⑧ 【中医診断治療学Ⅱ】 Practice of Acupuncture and Moxibustion			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	60	単位	2
学年	3年	学期	通年	曜日	土曜日	時限	1.2限目

担当教員	副田 恵子	実務者経験	1999年4月～現在まで鍼灸院を開業中 鍼灸院及び往診にて鍼灸施術をおこなう
------	-------	-------	---

学習内容	実際の臨床で使う経絡経穴を使用し、手技の応用や体表観察の技術を疾患ごとに身につける。
到達目標	1、2年生で習得した手技を発展させ、臨床に生きる治療技術の習得を目標とする。

準備学習 時間外学習	各疾患の東洋医学的理解の復習
使用教材	鍼灸道具 配布プリント
留意点 備考	副教材として経絡経穴概論の教科書を持参して受講することが望ましい。

成績評価	毎授業に小テストを実施。期末試験70%+小テスト30%で評価する。
------	-----------------------------------

前期 授業計画【内容・目標】		
1	2年時の復習	2年時で学んだ手技の理解と確認。 小テストで80%の内容理解到達を目標とする。
2	肩こり①	東洋医学的病因病機の知識を理解し、臨床で通じる手技を身につける。 小テストで80%の内容理解到達を目標とする。
3	肩こり②	東洋医学的病因病機の知識を理解し、臨床で通じる手技を身につける。 小テストで80%の内容理解到達を目標とする。
4	腰痛①	東洋医学的病因病機の知識を理解し、臨床で通じる手技を身につける。 小テストで80%の内容理解到達を目標とする。
5	腰痛②	東洋医学的病因病機の知識を理解し、臨床で通じる手技を身につける。 小テストで80%の内容理解到達を目標とする。
6	膝痛①	東洋医学的病因病機の知識を理解し、臨床で通じる手技を身につける。 小テストで80%の内容理解到達を目標とする。
7	膝痛②	東洋医学的病因病機の知識を理解し、臨床で通じる手技を身につける。 小テストで80%の内容理解到達を目標とする。
8	脱毛症①	東洋医学的病因病機の知識を理解し、臨床で通じる手技を身につける。 小テストで80%の内容理解到達を目標とする。
9	脱毛症②	東洋医学的病因病機の知識を理解し、臨床で通じる手技を身につける。 小テストで80%の内容理解到達を目標とする。
10	顔面痛①	東洋医学的病因病機の知識を理解し、臨床で通じる手技を身につける。 小テストで80%の内容理解到達を目標とする。
11	顔面痛②	東洋医学的病因病機の知識を理解し、臨床で通じる手技を身につける。 小テストで80%の内容理解到達を目標とする。
12	歯痛①	東洋医学的病因病機の知識を理解し、臨床で通じる手技を身につける。 小テストで80%の内容理解到達を目標とする。
13	歯痛②	東洋医学的病因病機の知識を理解し、臨床で通じる手技を身につける。 小テストで80%の内容理解到達を目標とする。
14	試験	試験
15	試験	試験
16	前期実技の復習	6疾患の東洋医学的病因病機の知識を理解し、臨床で通じる手技を身につけられているかの確認。

後期 授業計画【内容・目標】		
1	腰下肢痛①	東洋医学的病因病機の知識を理解し、臨床で通じる手技を身につける。 小テストで80%の内容理解到達を目標とする。
2	腰下肢痛②	東洋医学的病因病機の知識を理解し、臨床で通じる手技を身につける。 小テストで80%の内容理解到達を目標とする。
3	膝痛①	東洋医学的病因病機の知識を理解し、臨床で通じる手技を身につける。 小テストで80%の内容理解到達を目標とする。
4	膝痛②	東洋医学的病因病機の知識を理解し、臨床で通じる手技を身につける。 小テストで80%の内容理解到達を目標とする。
5	肩こり・頸肩腕痛①	東洋医学的病因病機の知識を理解し、臨床で通じる手技を身につける。 小テストで80%の内容理解到達を目標とする。
6	肩こり・頸肩腕痛②	東洋医学的病因病機の知識を理解し、臨床で通じる手技を身につける。 小テストで80%の内容理解到達を目標とする。
7	月経異常①	東洋医学的病因病機の知識を理解し、臨床で通じる手技を身につける。 小テストで80%の内容理解到達を目標とする。
8	月経異常②	東洋医学的病因病機の知識を理解し、臨床で通じる手技を身につける。 小テストで80%の内容理解到達を目標とする。
9	食欲不振・肥満①	東洋医学的病因病機の知識を理解し、臨床で通じる手技を身につける。 小テストで80%の内容理解到達を目標とする。
10	食欲不振・肥満②	東洋医学的病因病機の知識を理解し、臨床で通じる手技を身につける。 小テストで80%の内容理解到達を目標とする。
11	不眠・疲労倦怠①	東洋医学的病因病機の知識を理解し、臨床で通じる手技を身につける。 小テストで80%の内容理解到達を目標とする。
12	不眠・疲労倦怠②	東洋医学的病因病機の知識を理解し、臨床で通じる手技を身につける。 小テストで80%の内容理解到達を目標とする。
13	後期の復習①	後期に学んだ事の復習 実技テスト練習
14	後期の復習②	後期に学んだ事の復習 実技テスト練習
15	後期実技テスト	後期実技テスト
16	まとめ	6疾患の東洋医学的病因病機の知識を理解し、臨床で通じる手技を身につけられているかの確認。

科目名 【英】	はりきゅう実技⑨ 【臨床応用学Ⅰ】 Practice of Acupuncture and Moxibustion			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	60	単位	2
学年	3年	学期	通年	曜日		時限	

前期 担当教員	翁 祖燿	後期 実務者経験	
後期 担当教員	丸茂 美保子	後期 実務者経験	1992年～2004年 鍼灸院や整形外科に所属 2004年～2014年 教員養成・専門学校専任教員 2014年開業

学習内容	疾患をあげ、その疾患で使用する経穴の穴性を説明し何故この疾患の時に使用されるのかを理解する。技術においても疾患・症状・状態に適応した技術を行えるようにする。
到達目標	臨床実習や卒後の知識・技術の向上を達成目標とする。

準備学習 時間外学習	経穴・東洋医学概論・東洋医学臨床論の予習をする。
使用教材	
留意点 備考	

成績評価	実技試験70点 平常点30点
------	----------------

前期 授業計画【内容・目標】		
1	1・2年次の復習①	・手の要穴の取穴 ・取穴への刺鍼練習及び刺入寸度の確認
2	1・2年次の復習②	・手の要穴の取穴 ・取穴への刺鍼練習及び刺入寸度の確認
3	鍼灸実技実習①	・鍼灸実技の注意点 ・医療過誤とその対処法について
4	鍼灸実技実習②	・背部の取穴と刺鍼 ・腹部の取穴と刺鍼
5	鍼灸実技実習③	・灸練習（米粒大、半米粒大）紙上灸・八分灸（人体）
6	運動器系疾患①	・運動器系疾患の治療法について 関節系疾患：股関節・膝関節・足関節ほか
7	運動器系疾患②	・五十肩・腱板炎・野球肘ほか
8	運動器系疾患③	・骨膜、筋および腱疾患について （腱鞘炎、肉離れ、寝違いほか）
9	運動器系疾患④	・その他の症候群について （急性腰痛、慢性腰痛、椎間板ヘルニアほか）
10	運動器系疾患⑤	・頸肩腕症候群について （肩こり、胸郭出口症候群ほか）
11	神経系疾患①	・神経系疾患の治療法について （三叉神経痛、後頭神経痛、肋間神経痛ほか）
12	神経系疾患②	・神経系疾患の治療法について （坐骨神経痛ほか）
13	神経系疾患③	・その他の神経系疾患について （顔面神経麻痺ほか）
14	前期試験	
15	前期試験	
16	まとめ	

後期 授業計画【内容・目標】		
1	オリエンテーション	授業の進め方・評価についての説明、施術力の確認
2	演習	症例を用いて経穴の確認と治療
3	演習	症例を用いて経穴の確認と治療
4	演習	症例を用いて経穴の確認と治療
5	演習	症例を用いて経穴の確認と治療
6	演習	症例を用いて経穴の確認と治療
7	演習	症例を用いて経穴の確認と治療
8	演習	症例を用いて経穴の確認と治療
9	演習	症例を用いて経穴の確認と治療
10	演習	症例を用いて経穴の確認と治療
11	演習	症例を用いて経穴の確認と治療
12	演習	症例を用いて経穴の確認と治療
13	演習	試験前 まとめ
14	試験	試験
15	試験	試験
16	演習	試験後 試験フィードバック まとめ

科目名 【英】	はりきゅう実技⑩ 【臨床応用学Ⅱ】 Practice of Acupuncture and Moxibustion			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	60	単 位	2
学 年	3年	学 期	前期	曜 日		時 限	

担当教員	酒井 美登子	実務者経験	開業9年6か月、整形外科リハビリ室2年・出張2年・薬剤師勤務7年
------	--------	-------	----------------------------------

学習内容	講師自身が、臨床で出会った実例を患者様個人が特定されない配慮をして、紹介し、東洋医学の主に内傷病の病態把握をし、証を立て治法・手法・治療法を学び、各自が経穴を選穴して実技を行う。
到達目標	臨床をしていくのに大切な、自身で考えて治療根拠のある、それを患者様に平易な言葉で説明出来る能力を養う。

準備学習 時間外学習	東洋医学を、患者様に わかりやすく説明出来るフレーズ、言葉探しをする。
使用教材	【教科書】滋慶共通テキスト、鍼灸マニュアル 【プリント】各回20～30分程度プリントで学習する。
留意点 考 考	各自が、経穴を選穴できる資料を持参すること。

成績評価	試験 60点 平常点 毎回の提出 40点
------	----------------------

前期 授業計画【内容・目標】		
1	東洋医学臨床の実際 Ⅰ	肝の主症状①
2	Ⅱ	②
3	Ⅲ	③
4	Ⅳ	心の主症状①
5	Ⅴ	②
6	Ⅵ	脾の主症状①
7	Ⅶ	②
8	Ⅷ	③
9	Ⅸ	脾の主症状①
10	X	②
11	XI	腎の主症状①
12	XII	②
13	試験の説明と準備	
14		試験
15	試験	試験
16	総括	試験の講評、今後の課題

科目名 【英】	はりきゅう実技⑪ 【臨床応用学Ⅲ】 Practice of Acupuncture and Moxibustion			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	60	単位	2
学年	3年	学期	後期	曜日		時限	

担当教員	川内 良典	実務者経験	病院の物療科、鍼灸院に所属した後、開業。 現在に至り、鍼灸施術をおこなう。
------	-------	-------	--

学習内容	先哲が臨床でよく使う経穴の主治、取穴、刺鍼法、施灸法を学ぶ。 古代九鍼（接触鍼、摩擦鍼）、十二刺を学ぶ。
到達目標	頻用穴を取穴し、安全に且つスムーズに刺鍼、施灸ができる。 古代九鍼、十二刺を覚え、臨床で応用できる

準備学習 時間外学習	経穴の取穴部位の学習。刺鍼練習台等で刺鍼練習、紙上施灸により基本技術を繰り返す。
使用教材	配布プリント、経絡経穴学の教科書 ディスプレイ鍼、小児鍼セット、審美六鍼、もぐさ、灸点紙
留意点 備考	学校で決められたこと（容姿、準備、片付けなど）を守る。 実技は危険を伴うことがあるので、私語を慎み、説明をよく聞き、慎重に行う。

成績評価	本試験100%で評価する。
------	---------------

後期 授業計画【内容・目標】		
1	オリエンテーション、 『鍼論』より実技	授業概要、諸注意。手の経穴の取穴及び刺鍼・施灸法 手の重要穴を取穴し、安全に刺鍼、施灸ができる。
2	『鍼論』より実技	足の経穴の取穴及び刺鍼・施灸法 足の重要穴を取穴し、安全に刺鍼、施灸ができる。
3	『鍼論』より実技	胸部の取穴及び刺鍼・施灸法 内臓の部位を確認し、胸部の重要穴を取穴し、安全に刺鍼、施灸ができる。
4	『鍼論』より実技	腹部の取穴及び刺鍼・施灸法 腹部の重要穴を取穴し、安全に刺鍼、施灸ができる。
5	『鍼論』より実技	頭・顔面部・肩の取穴及び刺鍼・施灸法 頭・顔面部・肩の重要穴を取穴し、安全に刺鍼、施灸ができる。
6	『鍼論』より実技	背部の取穴及び刺鍼・施灸法 内臓の部位を確認し、背部重要穴を取穴し、安全に刺鍼、施灸ができる。
7	『鍼論』より実技	腰、臀部の取穴及び刺鍼・施灸法 内臓の部位を確認し、腰臀部の重要穴を取穴し、安全に刺鍼、施灸ができる。
8	古代九鍼	古代九鍼の概要。鍔鍼の解説、実技指導 鍔鍼の持ち方、押さえ方を把握し、臨床で使える。
9	古代九鍼	鑿鍼の解説、実技指導 鑿鍼の持ち方、摩り方を把握し、臨床で使える。
10	古代九鍼	員鍼の解説、実技指導 員鍼の持ち方、摩り方を把握し、臨床で使える。
11	十二刺	十二刺概要。偶刺、短刺の解説、実技指導 偶刺、短刺を臨床で応用できる。
12	十二刺	揚刺、直鍼刺、浮刺の解説、実技指導 揚刺、直鍼刺、浮刺を臨床で応用できる。
13	十二刺	恢刺、斉刺、傍鍼刺の解説、実技指導 恢刺、斉刺、傍鍼刺を臨床で応用できる。
14	試験	試験
15	試験	試験

16	まとめ	今までの実技の総まとめ 試験で気づいたことを中心に復習し、癖、間違いを正す。
----	-----	---

科目名 【英】	総合領域③ 【国家試験対策】 Synthetic Studies			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	60	単位	4
学年	3年	学期	通年	曜日		時限	

担当教員	前期：孫 杰 後期：篠塚 知恵子	実務者経験	2015年7月～2016年3月 鍼灸院に所属 鍼灸院にて鍼灸施術をおこなう
------	---------------------	-------	--

学習内容	はり師・きゅう師国家試験に準じた内容の学習をおこなう。
到達目標	国家試験に合格できる程度の学力をつける。

準備学習 時間外学習	
使用教材	配布資料
留意点 備考	

成績評価	
------	--

前期 授業計画【内容・目標】		
1	第2章 血液①	血液の組成と働き 血液凝固の仕組み 血液型
2	第3章 循環①	心臓血管系 構造 機能 心電図 心臓の神経支配 血管系の構造と機能 血圧 関与因子 循環の調節機構 特殊な部位の循環 リンパ系
3	第4章 呼吸①	呼吸器系の構造と機能 呼吸運動 肺機能 ガス交換 呼吸運動の調節
4	第5章 消化と吸収①	消化器系の構造と機能 口腔内消化 胃内の消化 小腸の消化 小腸の消化・吸収 大腸内の消化・吸収・排便 消化管ホルモン 肝臓の働き
5	第8章 排泄①	腎臓の構造と働き 尿細管の再吸収と分泌 クリアランス 尿の組成 尿の組成・蓄尿と排尿 腎臓による体液の調節
6	第9章 内分泌①	ホルモンの一般的特徴 各内分泌腺の働き 視床下部や下垂体ホルモン甲状腺・副甲状腺・膵臓 および副腎ホルモン 性ホルモンとその他
7	模擬試験	国家試験に準ずる試験
8	模擬試験	国家試験に準ずる試験
9	模擬試験	国家試験に準ずる試験
10	模擬試験	国家試験に準ずる試験
11	模擬試験	国家試験に準ずる試験
12	模擬試験	国家試験に準ずる試験
13	模擬試験	国家試験に準ずる試験
14	模擬試験	国家試験に準ずる試験
15	模擬試験	国家試験に準ずる試験
16	模擬試験	国家試験に準ずる試験

後期 授業計画【内容・目標】		
1	解剖学①	末梢神経系に関する問題①
2	解剖学②	末梢神経系に関する問題②
3	解剖学③ 東洋医学臨床論①	末梢神経系の疾患(上肢)に関する問題
4	解剖学④ リハビリテーション	リハビリテーションの装具に関する問題
5	解剖学⑤ 東洋医学臨床論②	腰椎椎間板ヘルニアに関する問題
6	解剖学⑥ 東洋医学臨床論③	運動器疾患に関する問題①
7	解剖学⑦ 東洋医学臨床論④	運動器疾患に関する問題②
8	解剖学⑧	運動器系に関する問題①
9	解剖学⑨	運動器系に関する問題②
10	解剖学⑩	運動器系に関する問題③
11	解剖学⑪	運動器系に関する問題④
12	解剖学⑫ 経絡経穴①	解剖学&経絡経穴①
13	解剖学⑬ 経絡経穴②	解剖学&経絡経穴②
14	解剖学⑭ 経絡経穴③	解剖学&経絡経穴③
15	解剖学⑮	関節学 総まとめ
16	解剖学⑯	骨学・筋学 総まとめ

科目名 【英】	総合領域④ 【国家試験対策】 Synthetic Studies			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	60	単位	4
学年	3年	学期	通年	曜日		時限	

担当教員	真田 浩二	実務者経験	2000年4月～2002年3月 鍼灸院に所属 往診および鍼灸院にて鍼灸施術をおこなう
------	-------	-------	---

学習内容	現代医学的な観点からの診察学【検査法・主な症状の診察法など】・治療学・臨床心理学を学ぶ。 鍼灸師に必要な項目のみならず、幅広く現代医学的鑑別診断による病態把握を学ぶ。
到達目標	症候から現代医学的な観点で鑑別診断ができる。臨床の場において実際に活用できるレベル、 かつはり師・きゅう師国家試験に対応できるレベルに到達する。

準備学習 時間外学習	解剖学・生理学の予習が必要。臨床医学各論との関連を復習する。
使用教材	配布プリント「臨床医学総論」
留意点 備考	副教材として解剖学・生理学の教科書を持参して受講することが望ましい。

成績評価	
------	--

前期 授業計画【内容・目標】		
1	診断学29	全身状態の診察12【言語/皮膚・粘膜・皮下組織1】
2	診断学30	全身状態の診察13【皮膚・粘膜・皮下組織2】
3	診断学31	全身状態の診察14【皮膚・粘膜・皮下組織3】
4	診断学32	全身状態の診察15【皮膚・粘膜・皮下組織4】
5	診断学33	全身状態の診察16【皮膚・粘膜・皮下組織5】
6	診断学34	全身状態の診察17【皮膚・粘膜・皮下組織6】
7	診断学35	全身状態の診察18【皮膚・粘膜・皮下組織7】
8	診断学36	局所状態の診察1【頭頸部1】
9	診断学37	局所状態の診察2【頭頸部2】
10	診断学38	局所状態の診察3【胸部・腹部】
11	診断学39	局所状態の診察4【直腸・肛門・外性器・背部】
12	診断学40	局所状態の診察5【四肢】
13	診断学41	そのほかの診察【関節可動域・救急時・女性・小児・高齢者】 臨床検査1【概要・尿検査1】
14	診断学42	臨床検査2【尿検査2・糞便検査・血液検査】
15	試験	前期試験
16	試験解答・解説	試験の解答および解説

後期 授業計画【内容・目標】		
1	診断学43	臨床検査3【血液生化学検査】
2	診断学44	臨床検査4【免疫学的検査・自己抗体検査・喀痰検査・髄液検査・関節液検査】
3	診断学45	生命徴候の診察1【体温】
4	診断学46	生命徴候の診察2【脈拍】
5	診断学47	生命徴候の診察3【血圧1】
6	診断学48	生命徴候の診察4【血圧2】
7	診断学49	生命徴候の診察5【呼吸】
8	診断学50	身体計測・神経系の診察1【感覚系の診察1】
9	診断学51	神経系の診察2【感覚系の診察2】
10	診断学52	神経系の診察3【反射の診察】
11	診断学53	神経系の診察4【脳神経系の診察1】
12	診断学54	神経系の診察4【脳神経系の診察2・髄膜刺激症状の診察1】
13	診断学55	神経系の診察5【運動機能の診察2】
14	診断学56	神経系の診察6【運動機能の診察2】
15	診断学57	神経系の診察7【運動機能の診察3】
16	治療学 臨床心理	治療学 臨床心理

科目名 【英】	総合領域⑤ 【国家試験対策】 Synthetic Studies			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	60	単位	4
学年	3年	学期	通年	曜日		時限	

担当教員	松本 栞	実務者経験	2013年3月～2014年9月 鍼灸整骨院に所属 鍼灸治療を担当
------	------	-------	-------------------------------------

学習内容	はり師・きゅう師国家試験に準じた内容の学習をおこなう。
到達目標	国家試験に合格できる程度の学力をつける。

準備学習 時間外学習	
使用教材	配布資料
留意点 備考	

成績評価	
------	--

前期 授業計画【内容・目標】		
1	東洋医学臨床論	国家試験対策①
2	東洋医学臨床論	国家試験対策②
3	東洋医学臨床論	国家試験対策③
4	東洋医学臨床論	国家試験対策④
5	東洋医学臨床論	国家試験対策⑤
6	東洋医学臨床論	国家試験対策⑥
7	東洋医学臨床論	国家試験対策⑦
8	東洋医学臨床論	国家試験対策⑧
9	東洋医学臨床論	国家試験対策⑨
10	東洋医学臨床論	国家試験対策⑩
11	東洋医学臨床論	国家試験対策⑪
12	東洋医学臨床論	国家試験対策⑫
13	東洋医学臨床論	国家試験対策⑬
14	東洋医学臨床論	国家試験対策⑭
15	前期試験	
16	試験解説 総復習	

後期 授業計画【内容・目標】		
1	国家試験対策①	衛生学・公衆衛生学
2	国家試験対策②	解剖学
3	国家試験対策③	解剖学
4	国家試験対策④	生理学
5	国家試験対策⑤	生理学
6	国家試験対策⑥	病理学
7	国家試験対策⑦	臨床医学総論
8	国家試験対策⑧	臨床医学各論
9	国家試験対策⑨	臨床医学各論
10	国家試験対策⑩	臨床医学各論
11	国家試験対策⑪	東洋医学概論
12	国家試験対策⑫	東洋医学臨床論
13	国家試験対策⑬	経絡経穴学概論
14	国家試験対策⑭	はりきゅう理論
15	模擬試験	国家試験に準ずる試験
16	模擬試験	国家試験に準ずる試験

科目名 【英】	総合領域⑥ 【国家試験対策】 Synthetic Studies			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	60	単位	4
学年	3年	学期	後期	曜日		時限	

担当教員	山口 隆平	実務者経験	野々村整形外科クリニック（平成16年4月～平成17年10月）
------	-------	-------	--------------------------------

学習内容	はり師・きゅう師国家試験に準じた内容の学習をおこなう。
到達目標	国家試験に合格できる程度の学力をつける。

準備学習 時間外学習	
使用教材	配布資料
留意点 備考	

成績評価	
------	--

後期 授業計画【内容・目標】		
1	内分泌	解剖・生理
2	内分泌	生理
3	内分泌	疾患
4	呼吸器疾患	閉塞性呼吸器疾患
5	呼吸器疾患	拘束性呼吸器疾患
6	病理学	総まとめ
7	病理学	総まとめ
8	病理学	総まとめ
9	血液疾患	貧血
10	血液疾患	白血病・紫斑病・血友病
11	生理学	総まとめ
12	生理学	総まとめ
13	臨床医学各論	総まとめ
14	臨床医学各論	総まとめ
15	試験	
16	まとめ	試験の解答および解説

科目名 【英】	総合領域⑦ 【国家試験対策】 Synthetic Studies			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	60	単位	4
学年	3年	学期	後期	曜日		時限	

担当教員	後藤 卓	実務者経験	2001年4月～2003年3月 鍼灸院に所属 鍼灸院にて鍼灸施術をおこなう
------	------	-------	--

学習内容	はり師・きゅう師国家試験に準じた内容の学習をおこなう。
到達目標	国家試験に合格できる程度の学力をつける。

準備学習 時間外学習	
使用教材	配布資料
留意点 備考	

成績評価	
------	--

授業計画【内容・目標】		
1	消化器系の解剖生理学	口腔・咽頭・食道の解剖生理学
2	消化器系の解剖生理学	胃・小腸・大腸の解剖生理学
3	消化器系の解剖生理学	肝臓・胆嚢・膵臓の解剖生理学
4	消化器系疾患1	口腔疾患・食道疾患
5	消化器系疾患2	胃・十二指腸疾患
6	消化器系疾患3	腸疾患
7	肝・胆・膵疾患	肝臓疾患・胆道疾患・膵臓疾患
8	麻酔科1	全身麻酔の種類と方法・特徴
9	麻酔科2	脊髄くも膜下麻酔・硬膜外麻酔・表面麻酔・浸潤麻酔
10	麻酔科3	伝達麻酔（神経ブロック）
11	一般外科1	熱傷・凍傷と凍瘡・ショック
12	一般外科2	救急処置・心肺蘇生術
13	はりきゅう理論	毫鍼の各部の名称・鍼の太さと長さの基準・鍼先の形状と特徴・ 鍼の材質と特徴・鍼管の材質と特徴・古代九鍼
14	はりきゅう理論	刺鍼の方式・刺鍼の術式・刺鍼中の手技・特殊鍼法・灸法の種類
15	はりきゅう理論	鍼灸の治効理論
16	はりきゅう理論	鍼灸の治効理論・関連学説

科目名 【英】	総合領域⑧ 【リハビリテーション実技】 Synthetic Studies			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単位	1
学年	3年	学期	前期	曜日		時限	

担当教員	中塚 和樹	実務者経験	2002年4月～2019年3月 大和中央病院に所属。外来・入院の急性期～回復期までのリハビリテーションを行う。
------	-------	-------	---

学習内容	各疾患による障害の基礎的評価技術と基礎的な運動療法手技の習得。
到達目標	一通りの各種検査・運動療法手技をスムーズに行えるようになる。

準備学習 時間外学習	関節可動域、MMT、形態測定等の測定の規則を予習する。
使用教材	リハビリテーション医学（東洋医療学校協会） 配布プリント
留意点 備考	計測しやすい服装での参加すること。

成績評価	期末試験 100%
------	-----------

授業計画【内容・目標】		
1	関節可動域測定	関節可動域測定の基本的ルールと主要関節の測定
2	徒手筋力検査法	MMTの判断基準の理解と主要関節の測定
3	反射 感覚検査	各種測定のルールと主要部位の測定
4	形態測定	各種測定のルールと主要部位の測定
5	関節可動域訓練 1	主に上肢の各種ストレッチとモビライゼーション技術の習得
6	関節可動域訓練 2	主に下肢の各種ストレッチとモビライゼーション技術の習得
7	関節可動域訓練 3	主に頸部腰部のストレッチとモビライゼーション技術の習得
8	筋力トレーニング 1	筋力増強の基礎知識と主に上肢の筋力強化（自重・軽負荷・チューブ）方法の習得
9	筋力トレーニング 2	主に下肢・体感の筋力強化（自重・軽負荷・チューブ）方法の習得
10	介助・ハンドリング 1	主にベッドから車椅子移乗までの介助方法やADL訓練の習得
11	介助・ハンドリング 2	主に歩行介助や歩行訓練技術の習得
12	症例検討会 1	症例動画を見て問題点の抽出方法の取得。
13	症例検討会 2	各グループでの議論と発表
14	試験前まとめ	総復習
15	試験	試験
16	試験解説	試験解説と総復習テスト